



卯月4月になりました。

3月は去ると言われるようにあっという間に去ってゆきました。今年は各地で大雪の被害もあり桜の開花がどうなるかと心配されましたが、季節は巡るで各地の桜のたよりも聞かれる時期になりました。

4月は新学期。新しい環境で胸ふくらませている若者も多いことでしょう。今月もネットワークの活動を報告するとともに、ネットワークも新しいスタートを切りたいと思います。

---

#### 【1】最新活動報告

3月の活動を報告します。

#### 【2】イベントカレンダー

これからの活動の予定などを紹介します。

#### 【3】授業のヒント

---

#### 【1】最新活動報告

---

3月は年次大会が実施されました。活発に行われたその内容を報告します。

#### ■年次大会が行われました

テーマ：「法教育と経済教育の対話その3：法と経済の教え方」

日時：2014年3月22日13：30～17：00

場所：同志社大学寧静館 5階

肌寒い京都でしたが、例年のように全国から多くの先生方が集まり、今回は58名に上りました。

活発に行われたその内容を報告します（以下は、宮尾尊弘先生の報告の要約）。

まず、篠原総一先生（同志社大学）から「法と経済の考え方」の基調提案がありました。篠原先生によれば、中学や高校の教育で目指すものは、社会の「仕組み」（成り立ち）を理解し、その仕組みがうまく機能しているかどうかを考えることであるとして、特に「分業と交換」に焦点を当てて、何を教えるべきかについて具体的な内容の提案がありました。そのうえで、例えば、市場の仕組みについて、自由な取引を支える条件としての法の目的について、教科書でもっとよく説明する必要性が指摘され、経済教育と法教育の連携がさらに必要との問題提起がされました。

篠原提案を受けて、第2部のパネルディスカッション「法教育と経済教育の対話その3」が行われました。コーディネーターである中川雅之（日本大学）先生から、過去2回のシンポジウムの概要と結論のレビューがあり、その上で各パネリストがそれぞれの立場から法と経済の教え方の実践例を中心にプレゼンがされました。

弁護士でもある野坂佳生（金沢大学法科大学院）先生は、法教育の社会的な意味を説明した後に、中学の社会科の出張授業において「環境税の負担」に関する効率と公正を解説した事例を紹介されました。

藤井剛（千葉県立千葉工業高校教）先生は、高校での法と経済の教え方について、法教育も経済教育も、社会科教育の一環という意味では目的は同じであることを強調され、その点で両分野の提携を呼びかけられました。

兼間昌智（札幌市立定山溪中学）先生は、中学では、経済的な見方を生かした授業や試験問題が見られるようになってきたが、現場教員への研修などのチャンスも少なく新しい動きが経済教育にも法教育にもまだ十分に生かされていない現状を紹介されました。

その後質疑応答がされ、中川先生の総括、および西村理（同志社大学）先生による挨拶があつて、閉会となりました。

これまでの二回に比べると、今回のシンポジウムでは法教育と経済教育の間の理解が進み、課題がさらに明確にされてきたと評価できるシンポジウムとなりました。 内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/activity/symposium/20140322symposium%20report.pdf>

宮尾先生の報告全文は以下をご覧ください。

<http://miyao-blog.blog.so-net.ne.jp/2014-03-24>

---

## 【 2 】 イベントカレンダー

---

これからの予定を開催順に掲載します。

### ■ 東京部会 (No. 66) を開催します

日時：2014年4月17日（木） 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部 7号館 7階 7071教室

内容、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo066flyerRvsd.pdf>

■京都部会 (No. 24) を開催します

日時：2014年4月25日(金) 19時00分～21時00分

場所：同志社大学 良心館4階第二共同研究室

内容、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto024flyer.pdf>

■大阪部会 (No. 38) を開催します

日時：2014年4月26日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

内容、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka38flyerR.pdf>

■札幌部会 (No. 10) を開催します

日時：2014年5月17日(土) 14時30分～17時00分

場所：北海道教育大学札幌サテライト教室

内容、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo010flyer.pdf>

■「夏の経済教室」の準備が進行しています。(再掲)

名古屋会場 2014年8月4日(月) 中学向け ウィンクあいち

2014年8月5日(火) 高校向け ウィンクあいち

大阪会場 2014年8月7日(木) 中学向け 国民会館

2014年8月8日(金) 高校向け 国民会館

東京会場 2014年8月14日(木) 15日(金) 高校向け 東証ホール

2014年8月18日(月) 19日(火) 中学向け 東証ホール

3会場とも本年と同じ場所の予定です。今年は、新しく教員になった先生や経済のイロハから学びたいという先生方のために、初級の読み解き講座を開講する予定です。また、時事問題とからめて教科書をいかに読み解くのか、入試問題の経済学からの解説なども企画しています。歴史シリーズやエコノミストと授業を作るなどの講座もさらにブラッシュアップしてゆきます。4月中には講師内容が確定する予定です。

---

### 【 3 】 授業のヒント

---

■板書のすすめ

最近の生徒は人の話を聞けないとか、ノートを取るのが遅いなどの声を良く聞きます。観察すると確かにそういえる兆候はあります。

その原因の一つにプリント授業の普及があるように思います。高等学校では

特にプリント授業全盛です。かく言う私も年間に100枚近い授業プリントを配付します。逆に、プリントがない授業は考えられないようになっています。

プリントも資料プリントというより穴埋め式の授業ノートを配付することが多くなっています。多くの情報を限られた時間で消化するには一番効果的ですが、これは逆に穴埋めの単語だけに目がゆく事になりかねません。生徒にしてみれば授業中は最低穴埋めだけしてテスト前に暗記すればいいやくらいの気持ちで授業に参加する状態が続いているということになります。

そこで逆転の発想です。プリント特に穴埋めプリントをやめて、板書に復帰することはどうでしょう。もちろん、授業効率という点では大きく阻害要因となります。でも、話を聞きながらメモを取る、板書を写すスピードというのは、内容を咀嚼したり疑問を持ったりするのにちょうど良い時間の流れ方もしれません。当然、板書内容や書き方の工夫が必要になります。予備校などでは、板書を売り物にする人気講師もいるそうです。

安易にプリントに頼らない。まずは塊よりはじめよで、今年私も久しぶりに板書に挑戦してみようと思っています。(新井)

---

#### 【 4 】編集後記 (みみずのたはこと)

---

3・3の法則というのを生徒に紹介しています。序論で結論を書き、その根拠を三つ順番にあげればだれでも文章が書けるようになる、というものです。それと同じでコメント力というものがあることを最近感じました。ある表彰式の生徒のプレゼンに対して主催者がコメントするという場での体験です。的確なコメントを聞かせてもらったと感じたのは「三つのことをお話します」という前説ではじまったものが多かったことで3・3の法則の有効性を実感しました。

もっとも、生徒に文章と同じだろうと言ったら、「また三つですか、さんざんにいわれてきましたから」と逆襲されました。(新井)

=====  
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



---

編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇

